

27:45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。

27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。

27:48 また、彼らのひとりはずぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうかわかることとしよう。」と言った。

27:50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。

27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。

27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。

27:55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。

27:56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」ということばを、神への恨みであるとする異端もありますが、それは馬鹿らしい間違えです。これは詩篇22編であることは明らかで、これはキリストの型であるダビデが苦難のときに神を呼んだ歌であり、イエス様はご自分がそのひな型を成就するのがご自分であるということを受け止めておられたのです。

イエス様が十字架で死なれたときには、いくつかの特別な現象がありました。その中で十字架の意味を表すものが記されています。神殿の幕は神様の聖と人間とを分けるものでしたが、これがなくなりました。十字架の身代わりによって、罪ある人間が主のもとに行けるということです。

聖徒たちが生き返ったというのは、どのような状態であったかわ定かではありませんが、いずれにしても死に定められていた者に命が与えられたという、神の救いを表すものです。

大切なことはこのような現象も、信じない者にとっては何も意味がないようでも、百人隊長のように信じる者にとっては大きな証であるということです。主の出来事は信じる者にとっては宝であり力なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

